

観光地における戦略的な景観整備誘導システムの提案 - その2 -

正会員 松尾沙央里* 佐藤誠治** 姫野由香***
小林祐司**** 穴見修司*景観 景観整備 構図
湯けむり 観光

1 研究の背景と目的

客観的な景観評価をどのように実際の空間を操作すればよいのかまでを、一貫して検証した研究が少ないため現在の景観計画では、既往研究による景観の解析手法は生かされているとは言い難い。また、近年の景観整備で地域の個性が重要視されていることから、その1では豊富な温泉資源と扇状地が作り出す世界的にも希有な湯けむり景観を見せる観光地別府市を研究対象地とし、構図解析を用いた湯けむり景観画像の景観整備指針を提示した。

そこで本研究では、その整備指針にもとづいた整備手法をフォトモンタージュを用いて提示する。さらに湯けむり景観視点場の属性を明らかにすることにより、提示した整備手法の戦略的活用の可能性を探ることを目的とする。

2 研究の方法

研究の流れを図1に示す。162枚全ての湯けむり景観画像に、その1で提示した画像ランクの付け方にもとづいて望ましい景観との特性の一致度が高い順にランクをつける。次に、視点場の属性を提示する。

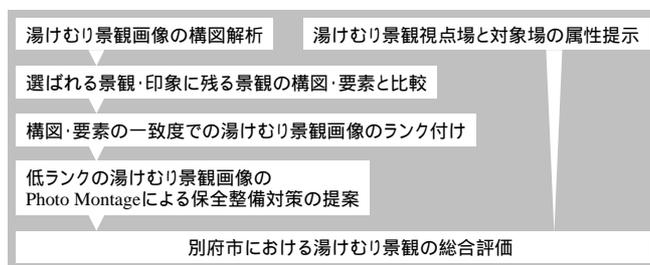


図1 研究のフローチャート

3 湯けむり景観画像ランクと考察

表1に構図タイプと湯けむり景観画像ランクのクロス集計の結果を示す。

【ランク】に分類された13枚の画像は全て、遠景の景観で市街地から湯けむりが上り立ち上り、奥に鶴見岳や扇山などの山を見る画像を多く含むB類の画像である。よって別府市の遠景は好ましい景観になる可能性が高いということが分かる。

【ランク】に分類された2枚は、どちらも印象に残る景観(以下I.L.)の特性にのみ一致した画像であった。それらの画像中で選ばれる景観(以下S.L.)の要素と一致

しなかった要素はE₁面に出現する観光資源でない「建物中高層」と、Ob₁に出現する「柵」で、1枚はS面が出現する画像だが、S.L.の条件でS面を含む画像中のE面には観光資源以外の建造物は出現していない。またI.L.の条件ではF面の「草原」とObとして「柵」が用いられる画像が多かったのに対し、S.L.の画像で「柵」は1度も出現していない。これらの事柄が【ランク】がI.L.からのみ抽出された原因に挙げられる。

また、操作を容易である【ランク】の画像はD類に多く分類された。D類は、B類の構図にE₀面が加わった構図であり、E₀面に樹木が出現する画像が多い。しかし、大規模景観画像のE₀面に樹木が出現しているとS.L.、I.L.の条件と不一致なため、樹木削除の操作が必要となる。樹木は操作容易の要素であるので、D類には【ランク】に分類される画像が多くなったといえる。

B、D類以外に分類された画像は、操作が困難、不可能である【ランク、】に多く分類された。これらの構図は、B、D類の構図と比較してS.L.およびI.L.の構図特性と一致させるために多くの操作を要する複雑な形が多い。よってそれらの画像が低ランクに分類されている。

表1 構図タイプ別湯けむり景観ランク(枚)

S: 選ばれる景観と比較した場合										I: 印象に残る景観と比較した場合									
ランク	構図(類)									ランク	構図(類)								
	A	B	C	D	E	F	G	H	I		A	B	C	D	E	F	G	H	I
		13										13							
		1										1							1
	2	10		10		3			1		2	10		1	7			3	
	6	7	1	4	3	10					6	6		7	3	2			
	8	13	5	6	2	21	2	3	2		7	12	4	6	2	18		1	2
外		8	9	3	1	3	5		1		1	9	10	3	1	13	7	2	3

4 湯けむり景観の視点場の属性

研究対象が大規模景観・地形景観の場合、眺望を損なわないための「保全」に主眼が置かれがちである。しかし、様々な空間での戦略的な大規模景観構成要素の導入によるフォトジェニックな景観場の整備は重要である。よって本章では、湯けむり景観の視点場の属性を明らかにすることで、現状以上に良い環境での湯けむり景観の眺望を可能とするための景観場整備を行う優先順位を決定するための知見を得ることを目的とする。そのため、以下の3つの観点から視点場の属性を提示する。

視点場のアクセス性 最も近いバス停から 300m以内

